



藤井寺市観光ボランティアの会 美陵ガイドクラブ会報

〒583-8583 藤井寺市岡 1-1-1 (藤井寺市役所 藤井寺市観光協会内)
TEL : 072-939-1086 FAX : 072-936-9777

藤井寺 観光 ボランティア 検 索

第 19 号 2017 年 7 月

《 平成 29 年度に向けて 》 藤井寺市観光ボランティアの会 会長 鈴木繁實

日頃より当会にご協力、ご支援いただきありがとうございます。

今年度より会長に就任しました。前会長小野氏から引き継いで、当会の活動を盛り上げていきたいと身を引き締めています。どうぞよろしくお願いいたします。

本年度は、当会所属の藤井寺市観光協会が設立二十周年を迎えられ、藤井寺市の観光行政にとって輝かしい足跡を残してこられました。計画されている記念事業では私どももお手伝いをさせていただきます。また、百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産登録の国内推薦を受ける可能性があり、そのための準備をすすめながら、推薦を受けた際のお客様の受け入れに前向きに取り組んでまいりたいと考えております。

昨年度は春秋のウォーク、個別ガイド、市民祭りなどの地域連携イベント、小学校のフィールドワークなどを行い、延べ6千名近いお客様をお迎えしました。今年度も“おもてなしの心”で、より魅力的なご案内をしてまいりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

《 平成 29 年度の活動について 》

本年度は、会長職を初めとして幹事役の一部交代があり、新たな体制での取り組みが始まりました。これを契機に、現在、皆さまのご期待にいつそう添えますよう、本会のあり方や組織全体についての確認、検討を進めています。

百舌鳥・古市古墳群世界文化遺産国内推薦決定への期待が、これまで以上に高まりつつあります。そこで、世界文化遺産登録に向けて、予想される来客者の増加などの対応や、案内コース、内容などをさらに充実させるとともに、関係機関や団体との緊密な連携などが、喫緊の課題となっています。

今年度も引き続いて“おもてなしの心”をベースとして、従来の活動を継続しながら、地域の方々とともに繋がりを深め、元気に楽しく活動したいと思います。どうか、皆さま方のご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。
(事務局 山本)

《 百舌鳥・古市古墳群のVR映像 》

この度作製された百舌鳥・古市古墳群のVR映像を紹介します。VRとは、バーチャルリアリティ（仮想現実）の略語で、その映像を見ると本当にその空間にいるような体験ができるというものです。約11分の作品でシュラホールの2階 AV コーナーで見ることができます。他にも堺市博物館や羽曳野市峯塚公園では随時映写が行われています。

特に古墳築造時の様子を再現した映像は、輝く古墳が目の前に迫り印象的です。一度体感してみたいと思います。(岩崎)



VR映像より

《 道明寺天満宮 梅まつり 》 テント開設2月10日～28日

道明寺天満宮では、毎年恒例の梅まつりが開催されました。当会は境内にテントを設け、天満宮縁起、古市古墳群の地図などの資料を配布し説明や案内をさせていただきました。

今年は梅には丁度良い天候だったようで、春の嵐にも散らずに紅梅、白梅、ピンクのしだれ梅など揃って見事に咲き、見ごろも長く続きました。

句会、撮影、ウォーキングなど、大勢のグループでの参拝や観梅のお客さんも近年多くなって来ました。応神天皇陵古墳など古墳巡りに興味を持たれるお客様には当会制作のマップで説明や案内をしました。また天満宮のミニガイドも大変喜んでいただきました。

また今年は境内で猿回しのショーがあり、一番前の席で見ている子供たちも大喜び。新米お猿さんの懸命な演技に、取り囲んだ人垣は拍手や笑いで大いに沸いていました。

例年通り、期間中天満宮奉納俳句の募集もあり入選するかなとほえみながら投句をされる方など、昨年より多い作品が集まりました。

期間中においでいただきました方々、天満宮の関係者の皆さま、ご協力いただきありがとうございました。(山崎)



《 春季ウォーク 》 4月1日(土)

「桜 社寺と古墳の里をめぐる」をテーマに、ふじいでら春季ウォークを開催しました。今年の開花は遅く、ちらほらの桜ではありましたが、前夜からの雨もあがり、道明寺天満宮を起点に藤井寺市北部の津堂城山古墳や潮音寺、伴林氏神社などを巡る約7kmのコースを、150人が楽しめました。

潮音寺では平安時代に孝養を尽くした衣縫孝女(いぬいこうじょ)の石碑と、中興の祖・独長禅師(どくちょうぜんじ)が描いた釈迦涅槃図を拝観。涅槃図を初めて見る方が多く「閻魔大王の問いに涅槃図を見たとき答えば極楽に行ける」と紹介すると、これだけで参加した値打ちがあると大変喜ばれていました。大井ふれあいランド北側の遊歩道は桜のトンネルになるはずでしたが、残念ながら未だ蕾。目線を下げて道沿いのユキヤナギを眺めていると、白い花に混じってピンクの花が2、3枝咲いています。突然の訪問客にはにかんだ衣縫孝女がポツと頬を染めたかのような様子。



市内から母子で参加された方は、母親の健康を気遣い30年ぶりに同居の予定だそうです。一緒に歩く、ただそれだけで二人とも喜びが滲み出ていました。

ウォーキングの目的は人によって異なります。歴史だけでなく、普段着の藤井寺を紹介することも大切と感じた一日でした。最後になりますが、本ウォークにご協力頂いた皆さまにお礼申し上げます。

(古川)

《 道明寺南小学校の「お茶を楽しんでいただく会」 》 1月31日(火)

今年も道明寺南小学校の6年生から「お茶を楽しんでいただく会」の招待状が当会に届きました。

毎年お世話になった人たちに対して、感謝の気持ちを込めてのお茶のご招待です。当会へは、春のフィールドワークで古墳や寺社をガイドした時のお礼でしょうか。

フィールドワークではいろいろ質問が飛び交い元気いっぱいの子供たちでしたが、本日はさすがに少々緊張気味で教えてもらった所作を一生懸命しようとする様子は、本当にほほえましく凛々しくもありました。

可愛いおもてなしに抹茶、和菓子をおいしくいただき、珍しい金平のお土産までいただきました。私たちが帰るとき、廊下で「ありがとう」のあいさつとお見送りに感謝しました。

6年生の皆さんはもうすぐ卒業ですが、百舌鳥・古市古墳群世界遺に登録されたときにはフィールドワークのことを思い出してくださいね。楽しいひと時ひとときをありがとうございました。(北山)



《 葛井寺藤まつり 》 4月21日（金）～30日（日）

葛井寺の「藤まつり」開催に合わせて、今年も、境内の一角にテントを張り参拝者に境内や周辺の見所などの案内をしました。

4月22日（土）23日（日）は昨年も好評だった当会員手作りの天平衣装での撮影会を催しました。家族全員で衣装を着て撮影をされる一家も何組かおられ、とても微笑ましい風景でした。白い古代衣装を着た男の子は剣が気に入って「えい！やー！」と色んなポーズをする姿がかっこよく、また着物を着た女の子のはしゃぐ姿が可愛らしく、印象に残りました。青空藤棚の下、古代衣裳での変身は格別に楽しんでいただいたようでした。

今年は気候の関係で衣装撮影会当日、藤の花は満開とはいかなかったものの、華やかな雰囲気の中大好評に終わりました。また、とても暖かい2日間で、遍路の方々など沢山の参拝者で境内は大変賑やかでした。

藤まつりも後半、藤の花房も1mを超えるほどになり、美しく咲きそろい見ごろになりました。
(安田)



《 小学校世界遺産学習フィールドワーク 》 藤井寺西小学校 4月28日（金）

藤井寺市教育委員会は市内の全小学校 6年生を対象に世界遺産学習を実施しています。今年は、雨天中止となった1校を除いて、6校 500名余りの児童が参加しました。

当会も郊外学習（フィールドワーク）の定点説明のお手伝いをし、私は今回「応神天皇陵古墳」を担当しました。

隣接する羽曳野市にありながら、来たのは初めてという子供たちも少なくありません。古墳の大きさなどを説明すると、熱心にメモをとり始めました。資料のレーザー図に六角形のお堂や階段の跡を見つけると、「今もあるの？」「古墳の中に入りたいわ」など興味津々。国宝の鞍金具の復元写真では、「きれいなあ」「すごいものがあったんや」と驚きの声が上がりました。



藤井寺市に住む子供たちにとっては、古墳はそこにあるもの、見慣れた日常の風景です。この世界遺産学習をすることで、身近なものの中に宝物を発見したのではないのでしょうか。

どんなに小さな古墳でも、そこには、先人の英知がいっぱい詰まっています。私たちの祖先が残した歴史と文化を大切に思う気持ちを、これからも持ち続けてほしいと思いました。
(小田島)

《 津堂城山古墳の石棺 レプリカ 》

今から約100年前の明治45(1912)年、津堂城山古墳の後円部から石棺が見つかりました。そのまま埋め戻されて宮内庁が陵墓参考地に指定し現在に至っています。

今回藤井寺市は当時の先生方の図面や報告文、発掘時の写真などを参考に、兵庫県高砂市産の亀山石を使って、レプリカを作成し、津堂城山古墳ガイダンス棟「まほらしろやま」前の広場に展示されました。

石棺は6枚の板石を組み合わせてつくられ、蓋石、側石、底石には縄掛け突起が、小口石には方形突起が作られ、長さ348cm、幅168cm、高さ188cm、蓋石の厚み38cmなど、全体の重さが実に16トンもある巨大なものです。



(清瀧)

私は現在、藤井寺市大井というところに住んでいます。

私が生まれたころは大阪府南河内郡道明寺村大字大井と云いました。

私の父も祖父も曾祖父も、この村で生まれ育ち亡くなりました。つまり私は先祖代々大井生まれの大井育ちの子孫ということになります。

大井という村は、なぜ大井というのでしょうか。実は定かではありません。通説では、村の中に大きな井戸があったから大井という名の村になったのだとなっています。しかし現在、村の中に大きな井戸はありませんし、その遺構もありません。つまり大きな井戸があったとの証明がないのです。

大きな井戸があったとすれば、それは今の和川の河床の下で、江戸時代の付け替え工事のときに潰されてしまったあたりという可能性はあります。和川が付け替えされるまでは、今の藤井寺市川北地区も大井村でしたので、付け替えで田畑を失った村人が幕府から代替地をもらったという話が伝わっています。そこに大きな井戸があったのでしょうか。

その説とは別に、「井」というのは、井戸の意味のほかに、「流水から用水を汲み取る場所」（広辞苑第6版）、あるいは「堰」という意味もあり、「井戸」ではなく「流れを堰き止めるという場所」を差すのであれば、西大井遺跡を流れていた大水川の流れを堰き止める場所が「大井」であったという可能性があります。

古墳のある風景 10

川上 恵 エッセイスト

雨の似合う古墳

小雨に煙っている応神天皇陵の風情と言ったら……。

緑濃い古墳の杜は、霧雨の向うにぼんやりとその姿を滲ませ、拝所の玉垣も白い玉砂利も清らかなことこの上ない。清浄で端正で雄大、「聖域」という言葉が頭をよぎる。

雨宿りをしているのだろうか、どこからか小鳥の鳴き声が聞こえる。

「雨の似合う古墳ですね」

雨の向うを凝視しながら友人が、ぼつりと言った。

「古市古墳群で一番大きな古墳なの。幽玄で、なんだか異空間にいるみたいね」

辺り一面に乳白色の紗がかかっている。

そう、ここは異空間。八幡神がおわす場所。

応神天皇陵古墳

